資料－２

庭園植栽ゾーン

国際フォーラム庭園の植栽計画（案）

目　　次

計画の検討フロー ･･･ i

Ⅰ.分析 ･･･1

Ⅰ-1　計画地の特性･･･2

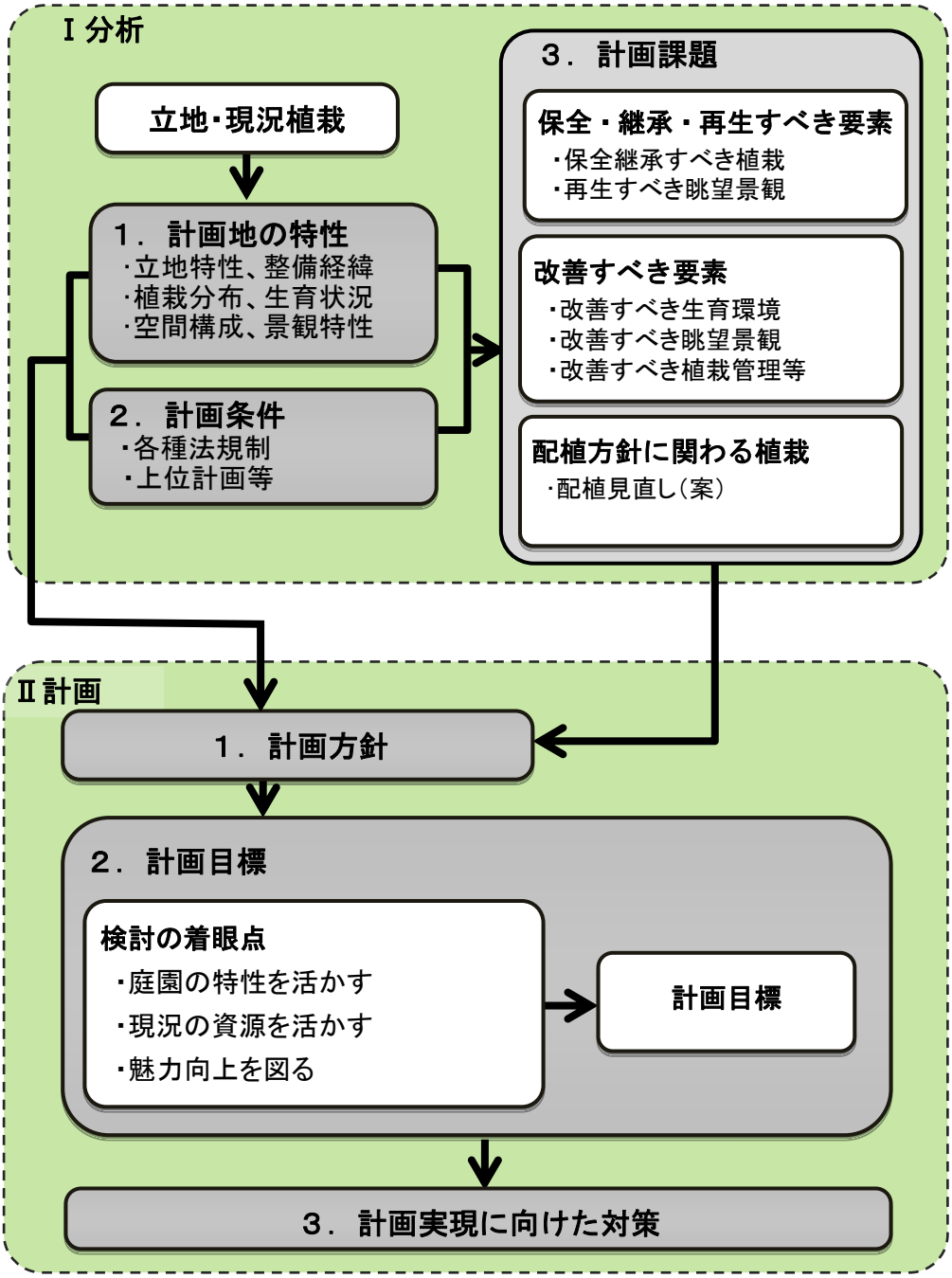
Ⅰ-2　上位計画等の整理･････････････････････････････････････37

Ⅰ-3　計画課題の整理･･････････････････････････････････････41

Ⅱ.計画 ･･･46

Ⅱ-1　計画方針と計画目標･･････････････････････････････････47

計画の検討フロー



図：計画の検討フロー

Ⅰ．分　析

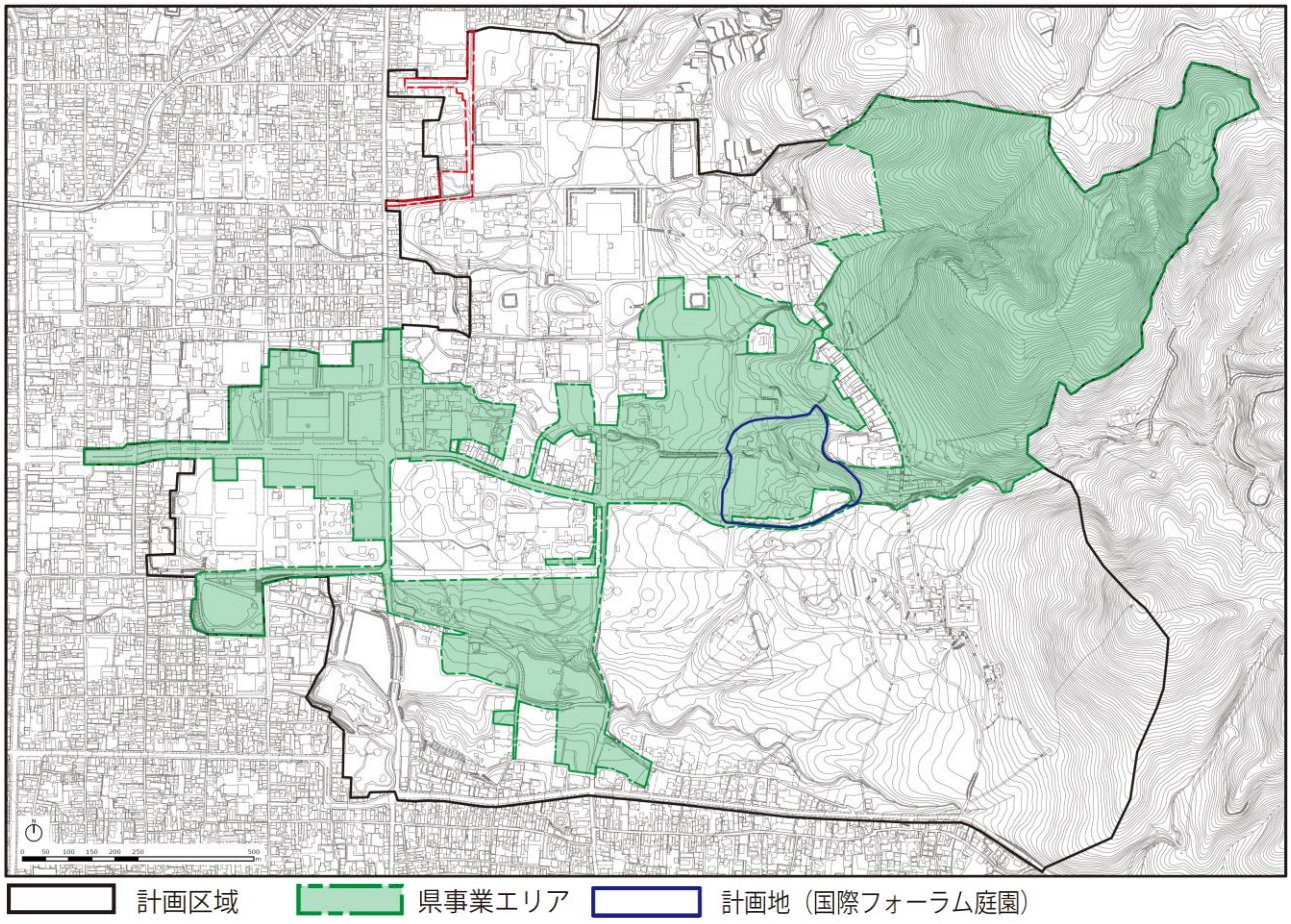
Ⅰ-1　計画地の特性

（１）計画地の立地・位置づけ

特性－１　計画地の立地

計画地は、公園全体の計画区域の中央付近にあり、若草山山麓と平坦部の接点に位置している。計画地の範囲は主に都市公園区域であるが、一部は春日大社境内地となっている。

１）計画地の位置・諸元



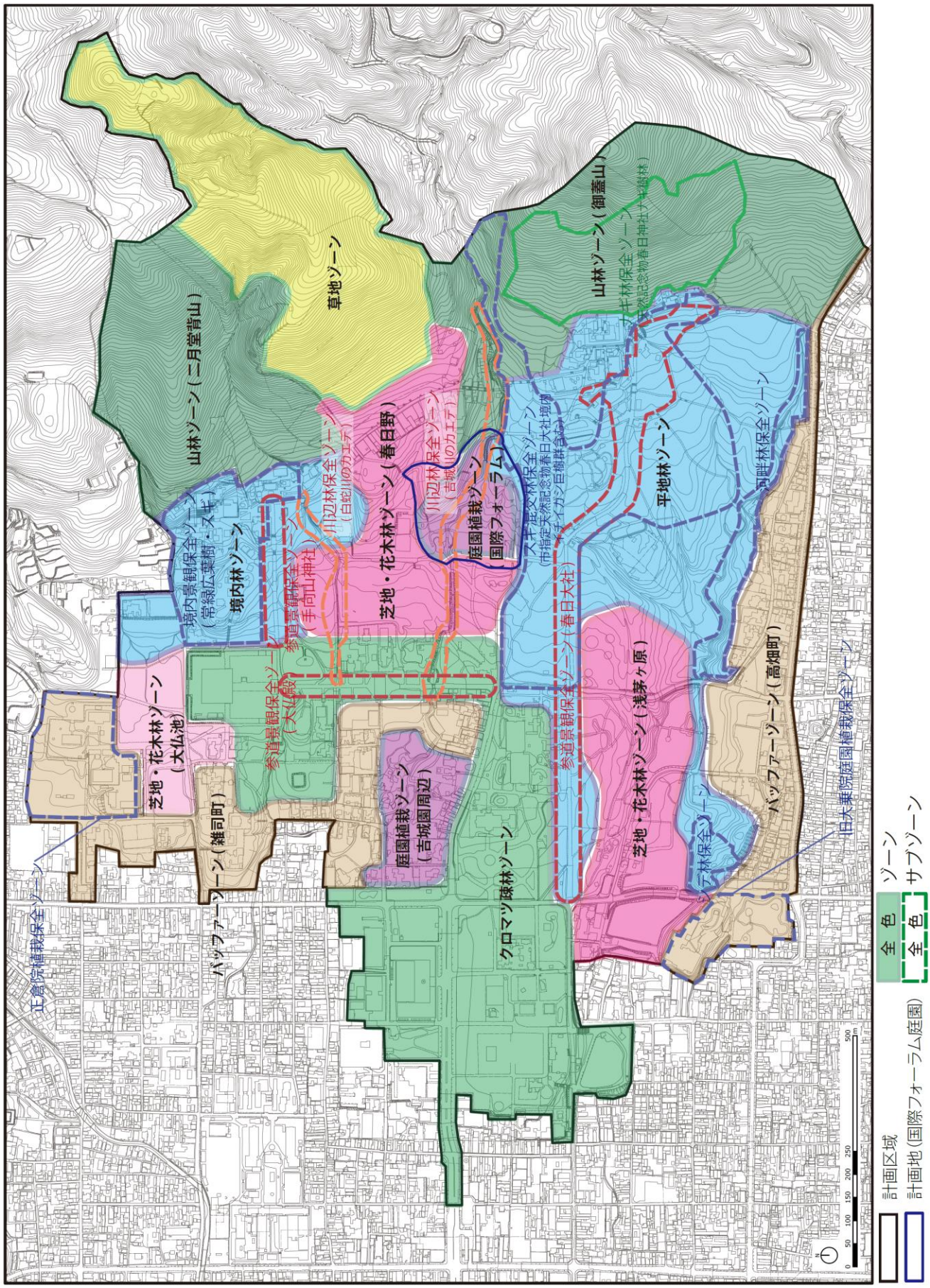
図：計画地の位置

○面　　積　　約４．７ｈａ

○土地内訳　　県事業エリア（都市公園：奈良公園）　約４．０ｈａ
春日大社境内地　　約０．７ｈａ

※計画地内の植栽管理は、全て奈良公園事務所が実施している。

２）計画地とゾーニングの関係



図：計画地とゾーニング

３）計画地の位置づけ

特性－２　計画地の位置づけ

・計画地は、土地利用的に見ると奈良春日野国際フォーラム・甍及びその隣接地と捉えることができる。奈良春日野国際フォーラム・甍（以下「甍」と称する）は、同時通訳施設や能楽堂を備えた国際コンベンション施設である。

・「甍」は奈良公園をはじめとする世界文化遺産に囲まれた中に位置しており、周辺環境に調和した大規模な庭園と一体となったコンベンション施設は他に類を見ないものと評されている。庭園は、コンベンション施設の魅力の一つとして、多様な利用がなされている。

庭園パーティー（貸切）

同左

同左

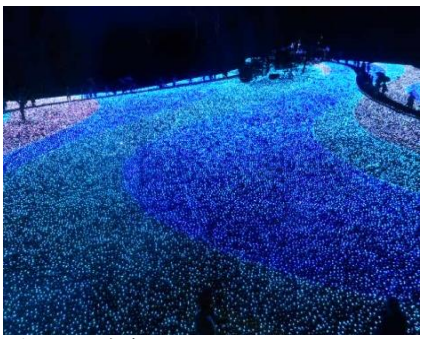
ナイトパーティー（貸切）

庭園コンサート

同左

東大寺聖武天皇祭

なら瑠璃絵（夕方・玄関前）


なら瑠璃会

若草山焼き

若草山焼き･大花火

なら燈花会

（２）歴史的な経緯

特性－３　歴史的な経緯

・計画地は、公会堂（明治 36 年 1903 整備）の敷地及び庭園を受け継ぐものであり、現在の植栽は、「甍」（旧称新公会堂）の建替整備（昭和 62 年 1987）に伴い整備された庭園植栽である。

・「甍」の庭園整備では、吉城川が大きく改修され芝地が広げられている。ひょうたん型の池や前庭周辺などが保全継承されているほか、良好な樹木の多くが保存又は移植により保全・活用されている。

１）計画地及び周辺地の来歴

年　次	内　　容
明治 13 年（1880）	・太政官布達により奈良公園 開設　（※本計画地は含まれていない。）
明治 21 年（1888）	・第六十八国立銀行・第三十四国立銀行の両奈良支店の集会所として奈良倶楽部（明治 36 年奈良県公会堂の前身）を旧四恩院跡（本計画地南端に位置していた）に建設
明治 22 年（1889）	・春日野・浅茅ヶ原等の名勝地、東大寺・氷室神社等の寺社境内地、若草山・春日山等の山野を含む新奈良公園地（奈良県立奈良公園）を告示
明治 30 年（1897）	・公園平坦地、芳山に楓、桜、柳、松、百日紅、杉などを植樹
明治 36 年（1903）	・奈良県公会堂（１号館）を整備
明治 43 年（1910）	・春日野運動場を整備
大正 11 年（1922）	・奈良公園を名勝に指定
昭和 07 年（1932）	・東大寺旧境内を史跡に指定
昭和 62 年（1987）	・奈良県新公会堂を整備
昭和 63 年（1988）	・なら・シルクロード博の開催
平成 02 年（1990）	・春日野園地（春日野運動場跡）および浮雲園地・三社池（春日野水泳場および児童遊戯場跡）、奈良公園館（春日野庭球場跡）として再整備
平成 27 年（2015）	・別館（旧公園管理事務所他）及び連絡通路を整備完了 ・「奈良春日野国際フォーラム甍」に改称

表：計画地の来歴年表　　出典：「奈良公園史」

図：江戸中期絵図上の計画地位置（想定）

新公会堂庭園の整備目的と条件

・鹿の入り込まない庭園として一般に開放し、四季にわたる花木と芝生のある庭として利用する。

・現況の山地部分と一体的な利用を図る。

・若草山と御蓋山の谷部を流れる吉城川の法線を変更し、庭園の芝生の園地を広げる。

・現況庭園の南側については、出来るだけ保全する。

設計意図

・芝生の園地と山地の地勢がぶつかる位置に吉城川の法線を設定した。

・新たな景観演出として、新公会堂レストランから見える位置に朱塗りの太鼓橋と滝組を設けた。

・山地部分の活用については、樹林越しに庭園が眺められる位置に、月見の宴や茶会等にも利用できる休憩所を設けた。

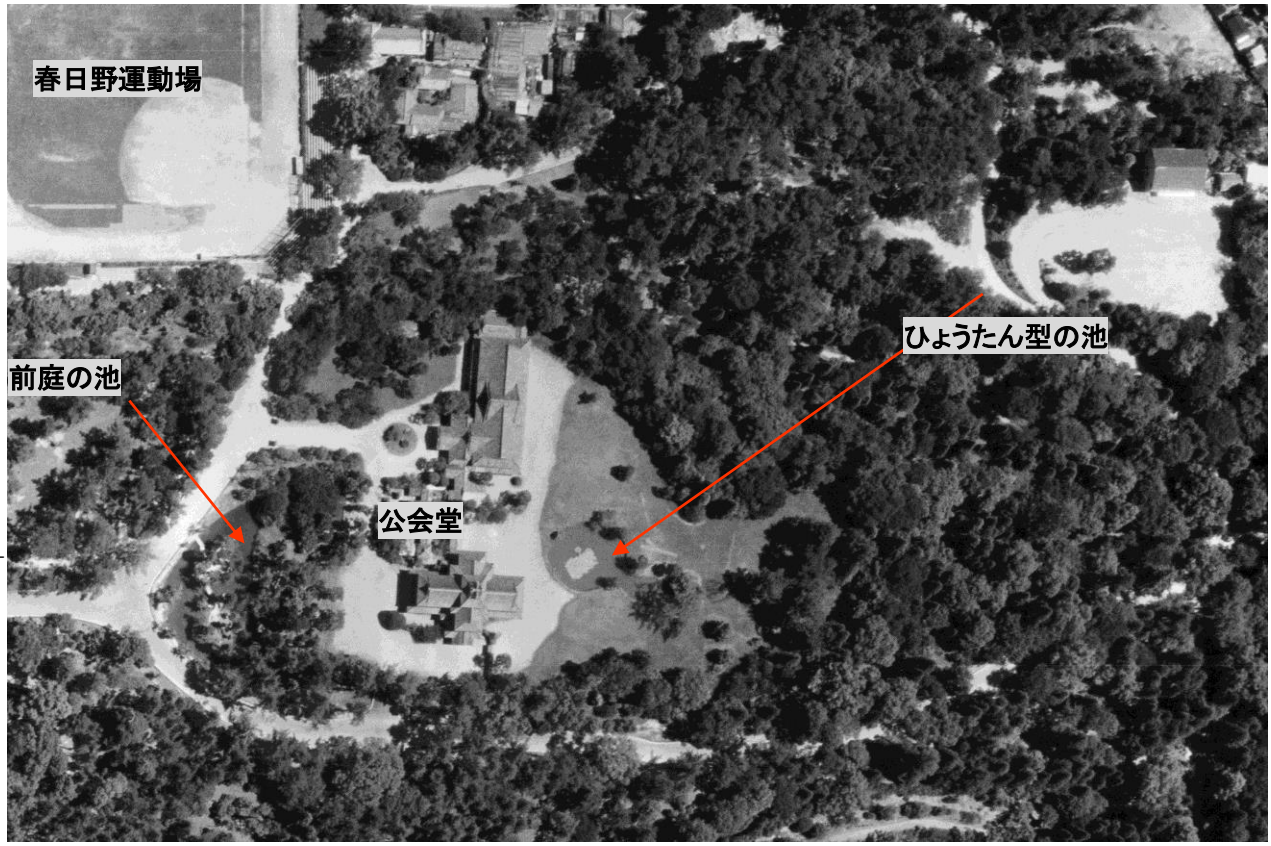
・現況樹木の移植利用を主体に、現況樹林との調和を図った。

施工期間：1985 年 9 月～1988 年 3 月

植栽樹種：クロマツ、ヤマモミジ、サルスベリ、サツキ、ヒラドツツジ、カンツバキなど

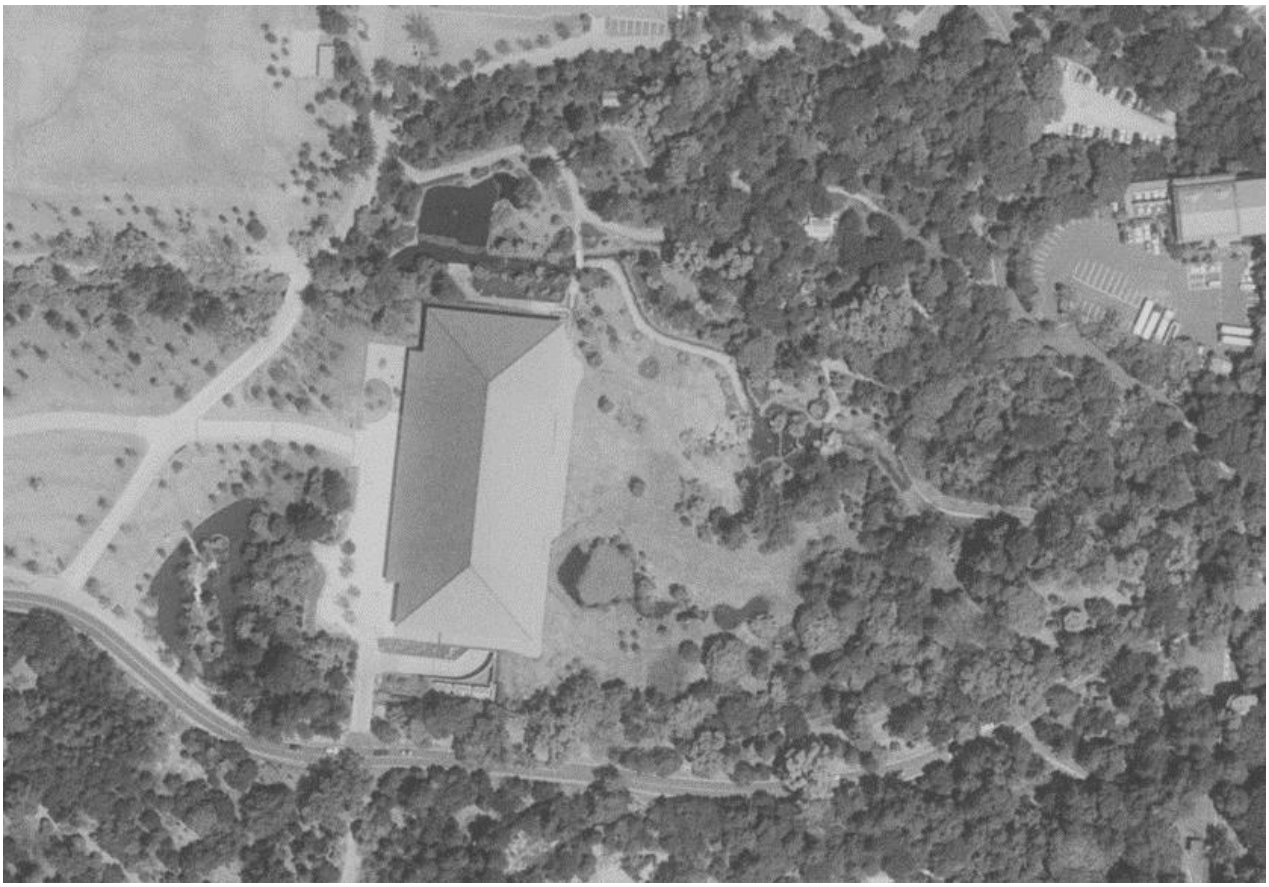
出典：造園作品選集 2「奈良公園・新公会堂庭園」より抜粋

２）航空写真で見る変化



１９６１年６月１９日　（第二室戸台風被害直前）

１９７９年９月１１日（奈良公園開設百年記念植樹祭直前）



１９９３年5月１６日（なら・シルクロード博開催後の再整備後）

２００８年5月１５日

（３）植栽の現況と評価

１）植栽分布の傾向

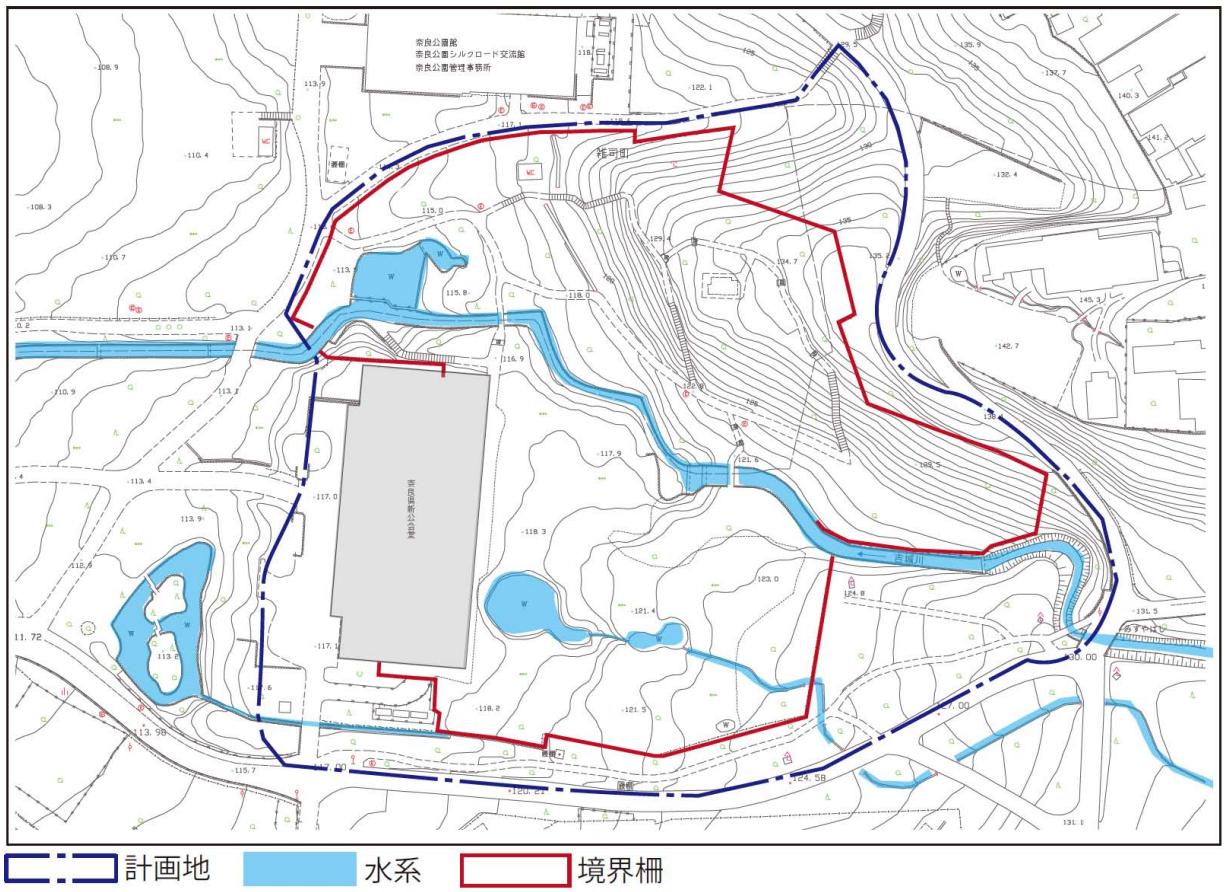
特性－４　植栽分布の概況

・計画地の植栽は、シカを排除した庭園部とシカが存在する外周部に区分される。庭園部は、シカが排除されているため高木の他に中低木や地被類が植栽されている。
・庭園部と外周部の境界部分には、ツバキ類（サザンカ含む）の列植やイヌマキの生け垣によって区分されている。
・植栽群は、樹種構成、規格、密度などから、「春日大社境内地との一体性が高いところ」と「春日野園地等と一体性が高いところ」に区分される。
・「春日大社境内地と一体性が高いところ」は、スギや常緑紅葉樹（在来樹種）の樹林が主体で、樹林の相当部分は鬱閉している。以下、特徴的な樹木を示す。

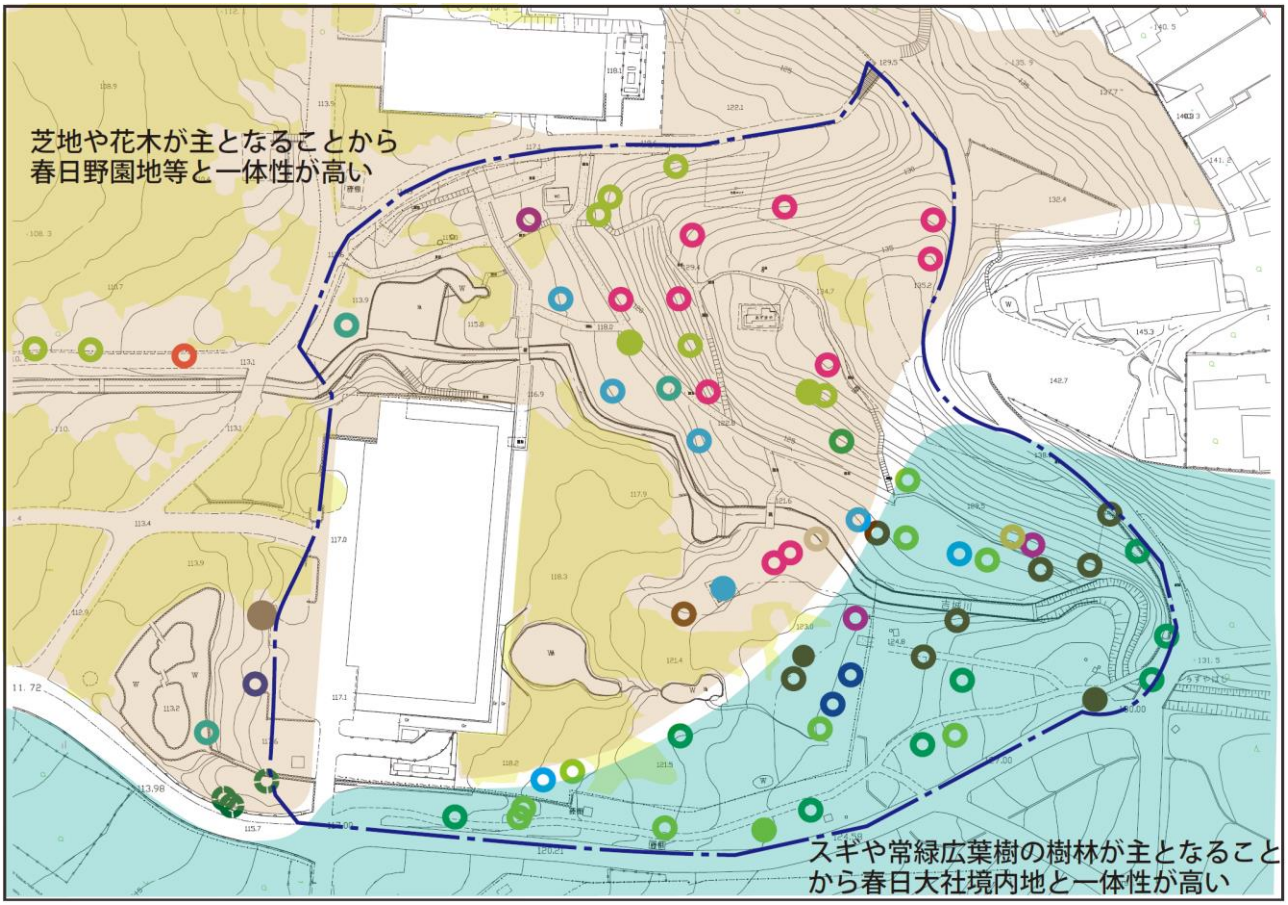
針葉樹　　スギ
常緑広葉樹　クスノキ、スダジイ、シラカシ、イチイガシ、シロダモ、カゴノキ

・「春日野園地等と一体性が高いところ」は、芝地の中にマツ類や花木類、低木・地被類が樹種毎にまとまって植栽されている。以下、特徴的な樹木を示す。

針葉樹　クロマツ（仕立物）、アカマツ
花　木　サクラ類、ウメ、サルスベリ
低　木　アジサイ、ツツジ類、トサミズキ、ムラサキシキブ



図：庭園の境界柵



計画地

芝地

大木　凡例

- クロマツ
- スギ
- モミ
- クスノキ
- アラカシ・イチイガシ・シイ
- エドヒガン・ソメイヨシノ
- イロハモミジ
- ケヤキ・ムクノキ
- イチョウ
- アカメヤナギ
- ナンキンハゼ
- メタセコイア

規格　凡例

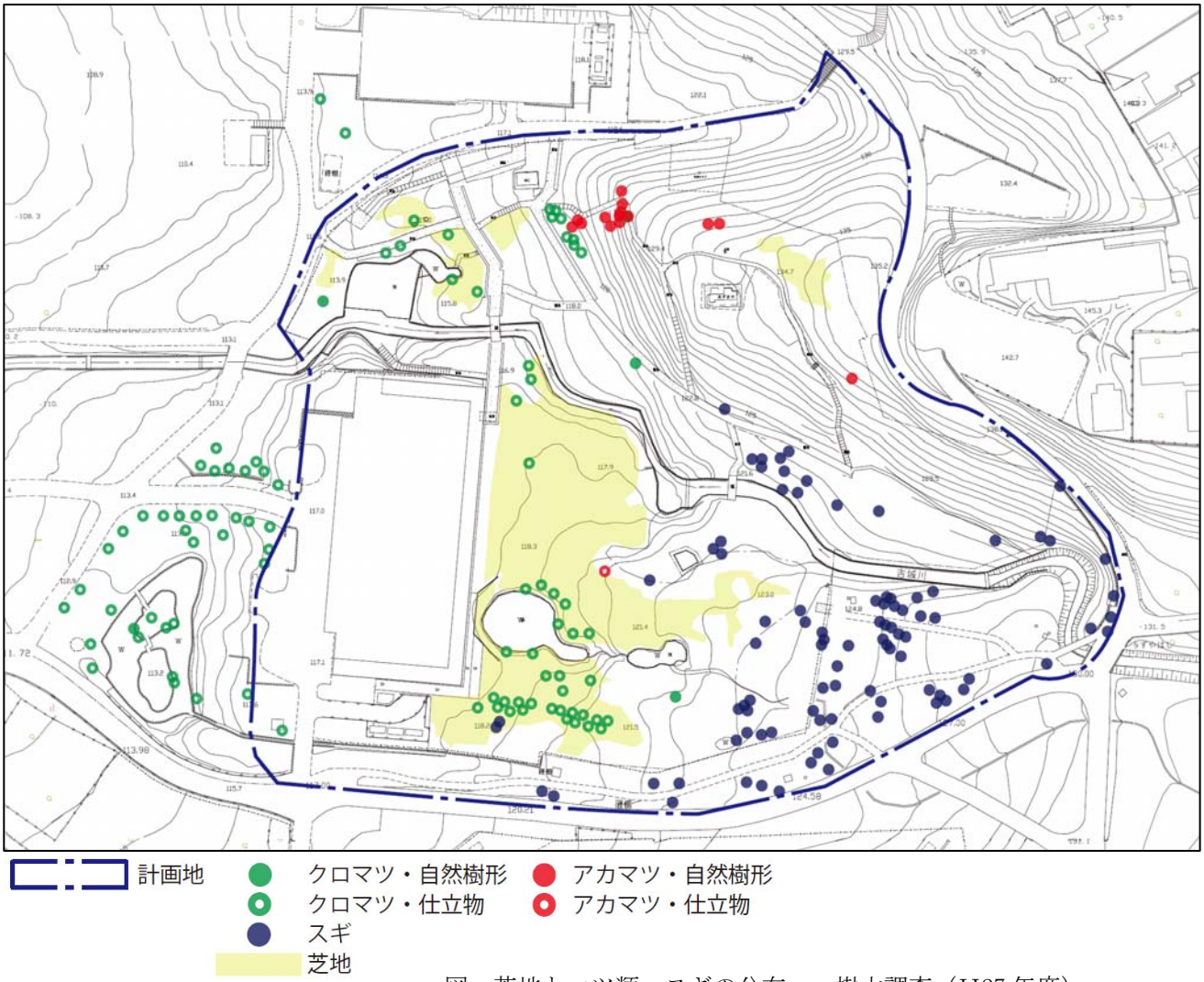
- 幹周 3m以上
- 幹周 2m以上

図：植栽分布の傾向

２）主要樹種の分布と生育状況

●針葉樹の分布（マツ類、スギ）

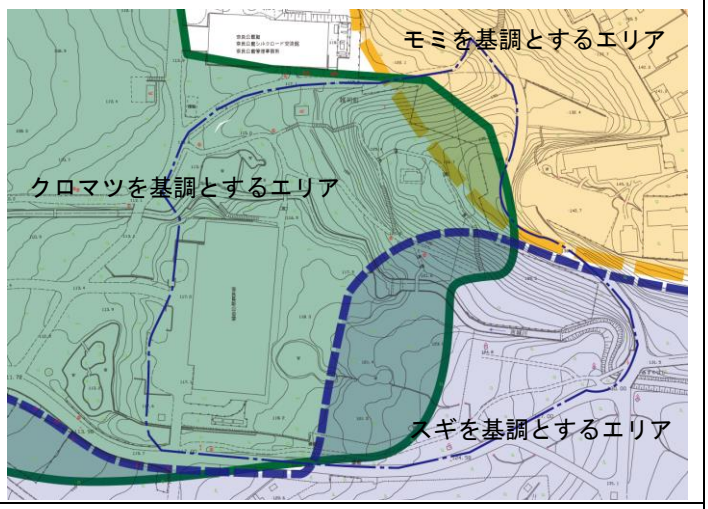
マツ類とスギの分布状況を以下に示す。



図：芝地とマツ類・スギの分布　　樹木調査（H27 年度）

①マツ類

分布と履歴	・マツ類は、尾根部の数本のアカマツを除き、ほとんどがクロマツである。 ・クロマツは建物周辺の芝地部分に多く分布し、大半が仕立物である。アカマツは、主に尾根部に分布し、自然樹形である。 ・規格の大きいものは少なく、大半は「甍」整備時（1988）に植栽されたと考えられる。
生育・管理	・マツ枯れ等により大幅に減少した。「甍」以前は、背景樹林には自然樹形のマツが、芝地部分には仕立物のマツが見られた。（29 頁写真参照） ・現在は仕立物のマツが大半で、自然樹形のマツは僅かである。尾根部のアカマツは過密であるためか生育は良くない。 ・マツ類はマツクイムシ対策として薬剤注入を行っているが、毎年枯れが生じている。
周辺部のマツ	・若草山山麓の芝地や樹林地は、マツ枯れのために現在はマツ類は全く見られない。 ・「甍」のアプローチには、仕立物のマツ類が多く見られる。

「公園全体の植栽方針」との整合	・クロマツは「クロマツを基調とするエリア」に分布しており整合しているが、尾根部にはアカマツがあることから、その点について検討する必要がある。  図：針葉樹の配植（案）
課題	・仕立物は「甍」の庭園の重要な構成要素であるが、配植や樹形を改善する必要がある。改善にあたっては「甍」のアプローチ部のマツとあわせて検討する必要がある。 ・尾根部山裾のクロマツ仕立物や庭園南端のクロマツ仕立物の列植など、景観との調和を再考すべきものが見られる。 ・尾根部にサクラが多く植栽されていることから、サクラとの調和に配慮したマツ類の復元は検討に値する。

ひょうたん型の池付近のクロマツの仕立物

尾根部のアカマツ（自然樹形）

不自然なクロマツ仕立物の列植

自然樹形と仕立物がバッティング